

令和5年度 施設としての自己評価

千代田 おひさまの森保育園

平素は千代田おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというとできていなかった 【2】どちらかというとできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容(今年度の重点)		
・愛着についての理解と愛着形成の実践	3	愛着関係については、mtgや昼礼の場などを含め学びの機会が多くあり、職員の中で愛着について理解が深まっていた。担任クラスだけでなく、朝・夕方などクラス外の子とも関わる機会も多かった為、mtgや昼礼の機会に、子どもたち一人ひとりの発達や個性についても共有を密に行ったことで、他クラスの職員も愛着関係を理解した上で担任と同じ目線をもって援助に入りやすくなった。
子どもたち一人ひとりと丁寧に関わる中で、安定した愛着関係を築き、愛着についての理解を更に深めていく。		
・子どもの意欲を伸ばす声掛けの検討と実践	2	異年齢と一緒に生活を行うからこそ、年上の子に対して憧れの気持ちを持つことが多かった為、そこから生まれる「やってみよう」という意欲を大切に、挑戦している時にはじっくりと見守り、関わるができるように、個々の意欲についても共有する機会を持ち、連携を大切にしていた。また、意欲が芽生えた時によりよい援助ができるように個々の機能発達について、職員体制や声掛け等をmtg時にすり合わせを行うようにした。子どもの育ちについて、日々の変化・気づきの発信を大切にしたい。
子どもの主体性を大切にし、発達に合わせた適切な声掛けを行っていく。		
●施設設備		
・保育室環境について	3	年間の育ちを振り返ることにより、今の子どもたちの育ちについて、これからの子どもたちの発達に対してどんな環境が必要か考える場を作った。発達への理解を深め、個々の興味や意欲が十分に発揮できる環境はどうあるべきであるのか、園内のmtgで話し合い、適切な玩具の制作、選定、配置の検討を行った。朝夕の合同保育の環境の見直しや職員配置等も都度振り返り、実践を繰り返していくことで、その時々発達に合わせた環境の提供ができた。
各学年ごとの育ちに合った環境、その子自身の興味・意欲の発揮できる環境に都度変化させていく。		
・園周辺環境の活用について	3	戸外活動に出ることで、子どもたちにどんなきっかけをもたらすことができるのか、何の為に行動のかをすり合わせ、各学年の発達に合わせて各クラスごと活動内容を検討した。園周辺の環境について認識を深めるとともに、安全面にも留意し、戸外での不審者訓練、火災、地震での避難訓練を子どもたちと実施し、都度振り返りを行うことで最善な対応をどの職員も臨機応変に行えるようにした。
子どもたちの安心・安全に配慮しつつ、子どもたちにどんなきっかけをあたることのできるのか検討していく。		
●保健・衛生		
・感染症対策について	4	子どもたちの体調の変化について、保育者・保護者間でも連携を密に行い、感染症が発生した際には、情報を正確に伝えていた。日常の衛生管理や感染症予防についてmtgを通して学び、状況によって変化させてきた。個々の集団生活で命を守ることへの意識も高まり、状況に合わせて臨機応変に考え、対応することができたのではないかと。
子どもたちの日々の変化を適切に捉え、保護者との連携を深めていく。感染症予防や拡大防止について、学びを深めていく。		
●運営		
・行事のありかたについて	4	昨年まではコロナウイルス感染症対策の為、行事の形を変化させることが多かったが、だからこそ今年コロナウイルス感染症が落ち着き、どんな形で行事を行うのが最善なのかを、職員間で話し合った。担当者だけでなく、園全体で検討する機会を設け、都度振り返りを行うことで何のために行動のかを考えていた。行事を通して、保育者同士・保育者と保護者が繋がりを、子どもを通して成長を実感していた。
行事を行う意味について考え、子どもたちの成長を実感し、喜びを共有することができる機会にする。		
・保護者との連携体制について	3	連絡ノートや口頭、写真を通して、保護者にどんなことをどのように伝えていくのが望ましいか、職員間で話し合う機会を設けた。また、行事やママランチなどの際にも、子どもたちの育ちを積極的に伝える機会となった。日々の中で保護者の子育てへの想いを聴いたり、一緒によりよい援助を検討することで同じ目線でのサポートに繋がった。
よりよい子育てのサポートができるよう、一つひとつの家庭の情報を職員間で行い、丁寧に連携を取っていく。		
・危機管理について	2	子どもたちが毎日過ごす環境の中で、安全に過ごせるよう、活動時・午睡時・給食時等様々な場面で起こりうる危険について考え、未然に防止できるようにしてきた。一つひとつを何の為に行動のか等すり合わせを行い、日常で起こりうる危険性やその場合の対処などを共有してきた。
防犯意識を高め、災害時の対応についても共通理解をすることで、臨機応変な対応ができるようにする。		

【総評】

平素より園へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。
開園より8年目を迎え、毎日子どもたち・保護者様と通ってくださっていることに感謝しております。
本年度は、子どもたち一人ひとりが安心して、友だちや保育者と一緒に過ごす中で、自分を発揮しながら伸び伸びと毎日過ごすことができるように、個々を丁寧に捉え、職員間での連携を密に行ってきた。子どもたちの日々の変化や成長についても、その場面のみを切り取るのではなく、現在～未来に繋がる今の子どもたちの育ちについて、保護者の方と一緒に成長を喜べる機会を大切にしていきたい。また保育園という場を通して、子どもたちがより良く育っていくことができるよう日々努めて参りました。
来年度も個々の育ちを丁寧に捉え、子どもたち一人ひとりが自分らしく日々過ごすことができるように、安心・安全の保育をおこなっていただけるように、全職員学びを通して、一層尽力して参ります。
また、子どもたちの育ちを保護者の方と一緒に喜び、未来に期待が持てるようにしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願致します。

令和6年3月1日

園長 長崎 和貴

上記の園自己評価の結果を掲示とともに開示させていただきます。尚この掲示は3/1から来年度4月末日まで開示します。